

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和6年7月29日に文部科学省から提供された全国学力・学習状況調査結果について、上野原市の分析結果がまとまりましたのでお知らせします。

本調査は、本年4月18日に全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的として、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました。

内容は、教科に関する調査（小学校：国語 算数、中学校：国語 数学）と生活習慣や学習環境等に関する調査が行われ、市内4校の小学校第6学年の児童127名（算数は126名）、3校の中学校第3学年の生徒119名が参加しました。

この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、教育委員会としましてはこの分析結果を生かしながら、児童生徒の学力や生活習慣の向上を図り、教育委員会教育方針であります「確かな学力と豊かな心の育成を目指した教育の充実」の実現に向けて、なお一層の教育活動を推進していきたいと考えています。子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、地域の協力が欠かせませんので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、各学校における教科に関する考察と今後の対策等については、個人面談や学校だよりなどにおいて皆様にお知らせする予定です。

上野原市教育委員会

○教科に関する調査の状況について

	国語	算数・数学
小学校6年生	国とほぼ同等	国とほぼ同等
中学校3年生	国とほぼ同等	国と大きな差はない

*全国学力・学習状況調査では、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題に分けて調査を実施してきましたが、令和元年以降は新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的な問題として調査を実施することになりました。

○教科に関する考察と今後の対策

【小学校国語】

できている点	
・情報と情報との関連付けの仕方、図等による語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと。 ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	
課題となる点	今後の対策
1) 資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 2) 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	1) グラフ、図、表などから何が分かるのかを考え、伝える目的や相手に合った資料を児童が自分で用意できるようにする。教科の学習以外の場面でも発表や短いスピーチの場面などで日常的に経験させる。 2) 各教科や特別活動などで、調査をしたりアンケートを取ったりした結果を分析する体験を児童主体で行う活動を取り入れる。調べた内容を線で囲んだりつないだりして分類や関連付けをするなどしたメモ作りをとおして、情報の整理の仕方も学ばせる。低学年から高学年まで、学年の段階に合わせて系統的に行う。

【小学校算数】

できている点	
・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること。 ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。 ・除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること。	
課題となる点	今後の対策
1) 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。 2) 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。 3) 道のりが等しい場面の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。 4) 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。 5) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること。	1) 問題場面を数直線や図などで表し立式できるようにする。 2) 学んだことを活用できるように、日常生活で使う場面を想定した問題を作成し、市内で共有する。 3) 異なる事柄について比較するとき、具体的な数などの条件を根拠とした上で、「どちらが～だから、〇〇である」といったような説明ができるようにする。 4) 複数の内容について理解していることを組み合わせて活用できるようにする。実物を用いて試行錯誤する場面を授業に取り入れたり、さまざまなパターンの問題に触れたりすることで課題を解決する力をつける。 5) グラフや表等から必要な数値を読み取り、条件を考えながら言葉と数を用いて書いて説明する活動に取り組む。

【中学校国語】

できている点	
・意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 ・自分の考えが伝わる文章になるように、表現の効果を考えて描写を工夫すること。 ・短歌などの伝統的な言語文化における表現の技法について理解すること。	
課題となる点	今後の対策
1) 目的に応じて必要な情報に着目して、文章を要約すること。 2) 目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。 3) 文脈に即して漢字を正しく書くこと。	1) 説明的文章では段落相互の関係や構成に着目させ、言い換えや言葉の定義に注意しながら読ませる。また、ドキュメントに貼りつけた文章を加除修正させて指定字数に再構成させるなど、コンピュータを活用した教材文の要約に取り組ませる。 2) 目的意識や相手意識を明確にして表現活動に取り組ませる。その際には、集めた材料を吟味し、取捨選択・推敲させることで表現の意図を明確にさせる。また、相互評価と振り返りを行い、自分の選択した表現の妥当性についても自己点検を促す。 3) 漢字学習の際には、常に用例を確認しながら行うよう意識させ、授業や家庭学習でデジタル教科書のフラッシュカードやAIドリルなどを活用して語彙の拡充を図る。また、学校図書館と連携し、読書の励行に努める。

【中学校数学】

できている点	
・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること。 ・与えられたデータから最頻値を求めること。 ・二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること。	
課題となる点	今後の対策
1) 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと。(数と式の領域) 2) 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと。(図形の領域) 3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(関数の領域) 4) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。(データの活用の領域)	1) 文字を使う意味や必要性について振り返り、nを整数とすると、$2 \times n$が2の倍数であることを確認する。また、奇数や連続する数など、数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりする活動を取り入れる。 2) 図形の領域では、文章を読み取りながら丁寧に図をかくよう指導する。また、コンピュータを活用して多くの問題に取り組み、図形に関する基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりする中で、筋道を立てて考えることができるよう指導する。 3) 数学的に説明する活動を多く取り入れ、具体的な事象を表や式、グラフで表し、相互に関連付けさせながら考察することができるよう指導する。 4) 用語の意味を確実に理解させ、箱ひげ図から特徴を読み取ったり、箱ひげ図を根拠として説明したりできるように指導する。

令和6年度 児童生徒質問紙調査の状況

表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的な回答と

＊次の調査結果は、重要で関心が高いと思われるものを抜粋しています。

1 生活習慣等について

〔単位：％ 以下同じ〕

朝食を毎日食べていますか			
	市	全国	差
小	96.1	93.7	2.4
中	90.7	91.2	-0.5

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか			
	市	全国	差
小	90.0	82.9	7.1
中	84.0	80.7	3.3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか			
	市	全国	差
小	95.4	91.6	3.8
中	94.9	92.5	2.4

2 自己有用感、挑戦心、達成感、規範意識、幸福感について

自分には、よいところがあると思いますか			
	市	全国	差
小	85.3	84.1	1.2
中	87.4	83.3	4.1

将来の夢や目標を持っていますか			
	市	全国	差
小	80.6	82.4	-1.8
中	67.2	66.3	0.9

学校に行くのは楽しいと思いますか			
	市	全国	差
小	79.8	84.8	-5.0
中	82.4	83.8	-1.4

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか			
	市	全国	差
小	96.9	96.7	0.2
中	94.1	95.7	-1.6

人が困っているときは、進んで助けていますか			
	市	全国	差
小	96.1	92.7	3.4
中	92.5	90.1	2.4

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか			
	市	全国	差
小	89.9	91.7	-1.8
中	90.7	89.8	0.9

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか			
	市	全国	差
小	88.4	83.5	4.9
中	77.3	76.1	1.2

・基本的な生活習慣について：経年変化では、朝食を毎日食べていますか・毎日同じくらいの時刻に起きていますかの設問では小中とも昨年同様90%を超えています。また毎日同じくらいの時刻に寝ていますは一昨年や昨年から改善して国との比較でプラスになりました。子どもたちの学習意欲の維持向上につながる基本的な生活習慣（食事や十分な睡眠）は成長期に必要な不可欠で、本市の状況は国とほぼ同等または上回っています。

・自己有用感・達成感・規範意識・幸福感について：自分にはよいところがあると回答した児童（85.3%）・生徒（87.4%）は国との比較でそれぞれ1.2ポイント・4.1ポイント高くなっています。「将来の夢や目標を持っていますか」から「生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」までの設問等も国と同程度の割合になっています。「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問は、前年との比較で児童（-9.6ポイント）・生徒（+5.9ポイント）になっています。いじめや困っている人を助ける設問では児童生徒ともに90%以上になります。「行くのが楽しいと思える学校」作りが学習や生活の指導基盤であり、笑顔で楽しい学校生活が送れるよう学校と教育委員会が連携していきます。今年度調査で地域の行事に参加していますかの設問がなくなりましたが、地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童（88.4%）生徒（77.3%）は国より高いポイントです。コミュニティ・スクール等の仕組みを活用し、学校と家庭や地域と連携してつながることで子どもたちの教育を充実させていきます。

時間や回数を問う質問には国の報告書にある基準等を参考にしています。

3 学習習慣、学習環境について

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか（1時間以上）			
	市	全国	差
小	42.7	54.6	-11.9
中	62.1	64.3	-2.2

新聞を読んでいますか（週に1回程度以上読んでいる）			
	市	全国	差
小	13.2	11.6	1.6
中	5.1	7.3	-2.2

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(101冊以上)			
	市	全国	差
小	29.5	31.9	-2.4
中	24.3	28.3	-4.0

4 ICTを活用した学習環境について

小5まで(中1・2の時)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した			
	市	全国	差
小	95.3	85.5	9.8
中	98.3	89.0	9.3

PC・タブレットなどのICT機器の活用で、楽しみながら学習を進めることができると感じますか			
	市	全国	差
小	93.0	86.0	7.0
中	95.0	82.4	12.6

PC・タブレットなどのICT機器の活用で、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか			
	市	全国	差
小	91.5	86.1	5.4
中	93.2	86.2	7.0

5 学習に対する興味・関心、理解度について

国語の勉強は好きですか			
	市	全国	差
小	58.9	62.0	-3.1
中	58.8	64.3	-5.5

国語の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	93.8	94.5	-0.7
中	96.6	93.9	2.7

国語の授業の内容はよく分かりますか			
	市	全国	差
小	88.3	86.3	2.0
中	87.4	82.7	4.7

算数（数学）の勉強は好きですか			
	市	全国	差
小	69.0	61.0	8.0
中	56.4	57.2	-0.8

算数（数学）の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	96.9	94.6	2.3
中	89.9	87.2	2.7

算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか			
	市	全国	差
小	84.5	82.1	2.4
中	77.3	75.4	1.9

・学習習慣、学習環境について：新聞を読んでいますか・あなたの家にはおよそどのくらいの本がありますかは国と比較してほぼ同等です。学校の授業時間以外に普段1日当たりどの位の時間勉強しますかは国と比較して生徒は同程度ですが児童は-11.9ポイントとなっています。勉強時間の設問は昨年度比で児童（-10.4ポイント）生徒（+6.8ポイント）で、それが今年度の結果に表れています。基礎的な知識技能を身につけるためにも学習習慣の定着が重要と考えて、学校と家庭が連携した家庭学習について取り組んでいきます。

・ICTを活用した学習環境について：PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した・ICT機器の活用で楽しみながら学習を進めることができた・ICT機器の活用で友達と考えを共有したり比べたりしやすくなるは、全て国との比較で5ポイント以上高くなっています。本市では、これらの設問が一人一台端末整備時から高い割合が継続しています。今後は「主体的・対話的で深い学び」の場面でのICT機器の活用や家庭に持ち帰っての効果的な使用など、多様な場面での効果的な機器活用に取り組んでいきます。

・学習に関する興味・関心、理解度について：国語の勉強は好きですか児童（58.9%）生徒（58.8%）、算数（数学）の勉強は好きですか児童（69.0%）生徒（56.4%）です。国との比較で国語は児童（-3.1ポイント）生徒（-5.5ポイント）、算数（数学）は児童（+8.0ポイント）生徒（-0.8ポイント）と、国語は少ない傾向で算数（数学）は多い傾向があります。国語や算数・数学の勉強は大切だと思いますか・授業の内容はよくわかりますかについては、国とほぼ同等の傾向がみられ、各学校の授業改善への工夫による効果と推測されます。引き続き今年度の調査結果をもとにした授業改善に取り組んでいきます。